
第6回共同事業運営会議報告

病院図書室研究会・近畿病院図書室協議会

(報告者 平成11年度世話人：小田中徹也)

日 時：1999年11月20日（土） 午後1時～6時

会 場：国立京都病院 小会議室

出席者：○病院図書室研究会

長谷川湧子 奥出麻里 河合富士美 田引淳子
熊谷智恵子 吉富まち子 上田奈緒美

○近畿病院図書室協議会

小田中徹也 首藤佳子 須井麻由美 林伴子
浜口恵子 木下久美子 大橋真紀子 山室眞知子

議 題：(1)インターネット・プロジェクト
(2)病院図書館員認定資格制度

司 会：小田中徹也 記録：熊谷智恵子

報告および決定・確認事項：

●インターネット・プロジェクト

「病院図書館員のためのウェブページ・フォリオ」の共同運営

フォリオ・チームメンバー：長谷川湧子 奥出麻里※1 下原康子
上田奈緒美 小田中徹也※2 須井麻由美 大橋真紀子
(※1 編集長 /※2 ウェブマスター)

まず、奥出麻里フォリオ編集長が第5回共同事業運営会議以降の経過を報告した。報告では、担当ページとファイル構成、ページ内容の改訂経過、報告および広報活動、アクセス数統計、記事更新記録の各項目について配布資料を元に具体的な説明があり、当共同運営ホームページが広く活用されていることが確認された。

次に、公開掲示板“folio talk”へ投稿された一記事の扱いについて、小田中徹也同ウェブマスターより補足報告の資料の配布と経過説明があった。またそれに先立ち、会員であり、フォリオ・チームメンバーの当投稿記事について長谷川湧子病院図書室研究会会長より謝罪の挨拶があった。

この件に関連して、首藤佳子運営会議構成メンバーから「“folio editors”の中の対応に違

和感を覚えた」「組織としての対応が必要」との意見が出された。これに対して、当記事投稿者の謝罪とともに自主削除の形になっていたこと、また当日の運営会議を間近に控えていたことから、会議での意向も踏まえ対応を考えているとの説明がウェブマスターよりあった。そして翌週、“folio editors”において、公開掲示板での投稿に際し厳重な注意を促すウェブマスターの見解をチームメンバーに示した。

その他、1999年10月25日より新たに追加・試作された非公開掲示板“folio forum”の使い勝手を含めて意見交換を行った。その結果、病院図書館員認定(準備)委員会の仮想会議室として、今後も継続して設けることが確認された。

●病院図書館員認定資格制度

「病院図書館員認定」実施計画

病院図書館員認定(準備)委員会委員：河合富士美 熊谷智恵子 吉富まち子

首藤佳子※ 林伴子 浜口恵子 木下久美子

(※委員長)

はじめに首藤佳子委員長より、配布資料を元に第5回共同事業運営会議での「病院図書館員認定資格制度」検討班答申後の経過報告があった。その中で、10月15日聖路加国際病院で開催されたヒヤリング会、および10月26日国立京都病院で開催されたヒヤリング会の詳しい内容についても報告された。また、各委員より研修プログラム検討作業の進捗状況も報告された。

さらに、「認定」実行委員会の発足にあたっては、11月はじめに同委員会の首藤佳子委員長と、委員6名(河合富士美、熊谷智恵子、吉富まち子、林伴子、浜口恵子、木下久美子)に対して、両会の会長名で「任命」する委嘱状が出されたことの報告があった。

続いて「実行委員会」の位置づけ、「病院図書館員認定資格制度」について検討し、以下の大枠ともいえる事項を確認した。

以下、確認事項。

(1)「実行委員会」の位置づけについて

正式名称：「病院図書館員認定(準備)委員会」とする。

(※両会の今年度総会において承認を得るまでは「準備」委員会とする。)

認定者：両会の会長とする。

(2)「病院図書館員認定」について

目的：将来的には「資格」取得を目的とするものの、当面は病院図書館員としての基礎的かつ専門的な教育プログラムの施行と、受講者に対する自主認定(教育認定)とするという方向性が確認された。

受講資格：「司書」の有資格者とする。ただし2000年4月から5年間を移行期間とし、勤務経験「5年以上」の病院図書館勤務者は受講資格ありとする。

受講者の範囲と制限：将来的にはオープンにすることを視野に入れているが、軌道に乗るまでの間は両会の「会員」のみを対象とする。また、受講者の制限についてはカリキュラムのスタイルやその内容によって違うので将来的には明確にしてゆく。

設定レベル：「認定」に相応しいレベルとして、病院図書館に必要な基本的知識・技術と

高度情報化社会に対応できる専門性を基本とする。

実施サイクル：1年目、2年目のカリキュラムを固定する事によって、毎年募集を行い、募集人数の調節と制限をはかる。

実施形態：「通信教育」「独習」と「スクーリング」および必要な場合は「実習」の二本立てとする。

他団体等への働きかけ：他団体との相乗りはせず、とりあえず独自に計画、実施する。また、実施にあたっては病院管理者、他団体への働きかけを両会の会長名にて事前、あるいは事後も行う。

一方、議題にあがったが確認までには至らなかった点は以下の通りである。

(1) 「実行委員会」の位置づけについて

役割の範囲：首藤委員長より、役割の範囲について要望が出された。その中で、「認定」の実施は両会が取り組む初めての「ひと」に関連する事項ゆえに多岐にわたる作業と影響が考えられる。そこで、「委員会」の役割をプログラムの「選定」と「実行」（講師の選定を含む）に限定したい、運営実務を担当する事務局は別にしてほしい、との提案があった。また、単純作業の外注化、協力委員を求め試行をする案も出された。

両会研修部との関連：研修部へのプログラムの委託ということになると両会の研修部との連携も必要であり、カリキュラムとの関連性からも、ここでは決めることが出来なかった。

独立性について：予算とその管理に関連があり、確認に至らなかった。

(2) 「病院図書館員認定」について

予算とその管理：独立性との関連があり、確認に至らなかった。

(敬称略)